



国民の森林・国有林

中部森林管理局

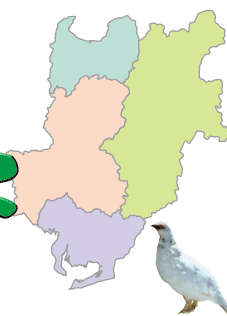
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



社会貢献活動に顕著な功績のあった企業・団体の皆様



2011・国際森林年

森林・林業社会貢献活動に対し 局長感謝状を贈呈

(P2～3に関連記事)

主 な 項 目		
	○ 各種表彰式関連記事	P2～3
	○ 各地からのたより	P4～5
	○ 風景紀行「古城山」	P6

各種表彰式を開催

平成二十二年

治山・林道工事コンクールの表彰式

〔森林整備課・治山課〕平成二十二年

治山・林道工事コンクール表彰式を、二月十八日に中部森林管理局において実施しました。

このコンクールは、治山工事及び林道工事の適正化並びに施工技術の向上、意欲の高揚を図り、併せて設計技術の向上に資することを目的に治山部門は昭和四十二年度、林道部門は昭和四十四年度から実施しています。

当年度に中部森林管理局管内で施工した、治山工事百六十六件、林道等工事百五件を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十四件、林道部門で六件を優良工事として選出し、この中から、優秀工事として治山部門・林道部門のそれぞれ二件を林野庁表彰に推薦し、治山工事二件と林道工事二件が林野庁長官賞を受賞しました。

また、優良工事として選出した、治山部門の十二件、林道部門の四件と、林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人、主任技術者並びに監督職員が中部森林管理局長賞を受賞しました。

十八日の表彰式は、中部局管内の長野県内で施工した治山及び林道工事の受賞者に対し行われ、飯干森林整備部長が、



表彰式（2月18日：局）



表彰状伝達式（2月28日：名古屋事務所）

審査報告した後、城土局長から表彰状を授与しました。

また、富山県、岐阜県、愛知県内で工事を施工した受賞者に対する表彰伝達式

は、二十八日に名古屋市内で行われ、竹林次長（名古屋事務所長）から表彰状を授与しました。

なお、林野庁長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち、二月七日東京において行われています。

各賞の受賞者は次のとおり

◎林野庁長官賞

〔治山工事部門〕

大協建設株式会社

（大鹿村）

平成二十一年度鷹ヶ巣復旧治山工事

伊那総合合治山

株式会社柳組

（飛騨市）

大谷（モトメ谷）復旧治山工事

株式会社相模組

（大町市）

〔林道工事部門〕

株式会社相模組

（大町市）

鹿島川林道新設工事

（中信署）

松田建設株式会社

（下呂市）

松尾小黒川林道（松尾）改良工事

（岐阜署）

◎中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

上村建設工業株式会社

（津南町）

小赤沢復旧治山工事

（北信署）

木下建工株式会社

（佐久市）

初谷沢復旧治山工事

（東信署）

宮下建設株式会社

（伊那市）

藪沢・歌宿沢復旧治山工事

（南信署）

木曾土建工業株式会社

（木祖村）

ヒル久保復旧治山工事

（木曾署）

大谷土建株式会社

（南木曾町）

奥市沢復旧治山工事

（南木曾支署）

奥田工業株式会社

（大桑村）

カナ沢復旧治山工事

（南木曾支署）

新栄建設株式会社

（立山町）

白萩川（2）復旧治山工事

（富山署）

橋本建設株式会社

（高山市）

大日川（間名古谷）山地災害総合減災対策治山工事

（飛騨署）

金子工業株式会社

（下呂市）

小黒川（オコズリ谷）復旧治山工事

（岐阜署）

株式会社梅田組

（下呂市）

七宗（左鬼面谷）復旧治山外1工事

（岐阜署）

有限会社共和土木

（恵那市）

上矢作（フジ小屋2）奥地保安林保全緊急対策工事

（東濃署）

付知土建株式会社

（中津川市）

東股（タツガヒゲ谷2）復旧治山工事

（東濃署）

◎林道工事部門

柳沢建設株式会社

（軽井沢町）

長倉山（併用）林道外1路線改良工事

（東信署）

川瀬建設株式会社

（松本市）

黒川支線作業道新設工事

（中信署）

株式会社林工務店

（高山市）

大箕谷林道改良工事

（飛騨署）

黒田建設株式会社

（本巢市）

大ツゲ谷（治山資材運搬路新設）復旧
治山工事
〔岐阜署〕

〔現場代理人、主任技術者及び監督職員
部門〕

◇平成二十一年度鷹ヶ巣復旧治山工事

大協建設株式会社

主任技術者 板山 浩

伊那谷総合治山事業所

監督職員 五十嵐 圭太

◇大谷（モトメ谷）復旧治山工事

株式会社柳組

現場代理人 上谷 享司

主任技術者 磐佐 政幸

飛騨森林管理署

監督職員 中嶋 章

◇鹿島川林道新設工事

株式会社相模組

主任技術者 倉品 幸平

中信森林管理署

監督職員 奥原 英

◇松尾小黒川林道（松尾）改良工事

松田建設株式会社

現場代理人 日下部 博司

主任技術者 桂川 武尚

岐阜森林管理署

監督職員 大西 正昭

森林・林業社会貢献活動に
進んで携わる者に対する
局長感謝状の贈呈

〔総務課〕平成二十三年三月十日、中部

森林管理局で平成二十二年一月から十二月までの一年間において、災害時における防災ボランティア活動や国土緑化推進等を通じた森林づくり活動、地域の奉仕活動等における地域連携・社会貢献活動などに進んで携わって頂いた企業、団体の中で、特に顕著な功績のあった九企業及び六団体に局長から感謝状の贈呈を行いました。

集中豪雨後の被害状況の確認や歩道の整備、外来種の除去活動、環境美化活動など各団体から十九実績、各企業等から百六十二実績の提出があり、審査の結果次の団体・企業に局長感謝状が贈呈されました。

受賞者は次のとおり



城土局長より感謝状を贈呈

〔有〕共和土木

〔株〕水口土建

岩佐土木〔株〕

◆防災活動

〔社〕名古屋林業土木協会

〔社〕名古屋林業土木協会古川支部

〔株〕丸山

田口土木〔有〕

山崎建設〔株〕

◆地域貢献

木曽の自然を愛する会

〔社〕名古屋林業土木協会愛知支部

〔有〕愛宝産業

〔有〕松橋林工

尾澤建設〔株〕

公共事業における
木質土木用材を活用した
優良工事例コンテスト

〔販売課〕

平成二十三年二月九日に長野

県林業センターにおいて、長野県産材

振興対策協議会土木用材利用推進部会主

催の「公共事業における木質土木用材を

活用した優良工事例コンテスト」が行

われ、長野県内の各森林管理署、南木曽

支署、伊那谷総合治山事業所をはじめ県

の出先機関等から応募のあった二十七件

の中から六工事が審査で優良事例として

選定され表彰されました。

このうち中信森林管理署の「鋼製枠土留工（木製パネル）」が長野県知事賞、南信森林管理署の「木製谷止工」が長野

県木材協同組合連合会理事長賞、南木曽支署の「丸太式残存型枠」が長野県産材振興対策協議会会長賞を受賞しました。

今回のコンテストは、長野県内で製造される製材品の三十五％を土木用材が占めること、「森林・林業再生プラン」、「公共建築物等における木材の利用促進に関する法律」の施行等により木材利用の気運が高まっていることを背景に、長野県産土木用材のより一層の利用拡大を図る活動の一環として実施されたものです。

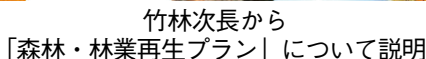
長野県産材振興対策協議会土木用材利用推進部会では、コンテストに応募した二十七件の施工事例と県内で製造される木質土木用製品の施工事例等を掲載した冊子（木製構造物等施工の手引き集）を作成し、長野県内で公共土木工事を行う機関に配布して土木用材の利用拡大を要請することになっています。



中信署の事例（善六沢復旧治山工事）

名古屋造林素材生産事業協会の勉強会で名古屋事務所職員が講演

竹林次長からは、「森林・林業の再生に向けた国有林の取り組み」と題して、日本の森林・林業が抱える問題点や課題の解決策として「森林・林業再生プラン」の説明と、それを達成するために森林作業道等路網密度を高め、高性能林業機械を導入し、集約化を図ることで、生産性を向上させ、安定的に木材を供給す



る観点から、国有林として民有林と連携し施業集約化の推進、路網整備を加速化して林業機械と組み合わせた低コスト作業システムを整備し、木材の安定供給に努めることなどを、図解入りで解りやすく説明しました。

植村上席指導官からは、林業専用道の作設指針を、飯村上席指導官からは、森林作業道の作設指針をそれぞれ、写真や図解入りで解りやすく説明しました。

協会からは、これまでにない研修で、これからの業務に生かしていきたいと好評を得ました。

福島小学校へ出前授業の実施

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

二月十七日、木曽町立福島小学校四年生四十七名を対象に森林教室の出前授業を実施しました。

福島小学校は、城山国有林が学校の裏山に位置しており、動植物の観察や森林散策など森林学習の場として利用されている、自然との関わりを大切にしていることから出前授業の依頼を受け、森林教室の実施となったものです。

当日は木曽署のふれあい係長の応援を得て、木曽五木の見分け方の説明の後、ヒノキ間伐木を輪切りにして絵や名前を書いて首に下げるまでの作業を計画していました。時間の関係で丸太切りまでとなりました。

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

二月十七日、木曾町立福島小学校四年生四十七名を対象に森林教室の出前授業を実施しました。

福島小学校は、城山国国有林が学校の裏山に位置しており、動植物の観察や森林散策など森林学習の場として利用されていて、自然との関わりを大切に行っていることから出前授業の依頼を受け、森林教室の実施となったものです。

当日は木曽署のふれあい係長の応援を得て、木曽五木の見分け方の説明の後、ヒノキ間伐木を輪切りにして絵や名前を書いて首に下げるまでの作業を計画していましたが、時間の関係で丸太切りまでとなりました。

城山には皆さんの
先輩が小鳥の巣箱を
掛けていますと
話をする田口所長



サ
ワ
ラ

授業では、最初に所長から森林の大切さの話をした後、ふれあい係長からクイズ形式で日本や木曽地域の森林について学習を進め、中でも「ヒノキの葉裏の気孔はYの字、サワラはXなんだよ」との説明には、パネルの標本を見て歓声を上げていました。

丸太切りでは、力が必要で大変ではないかと不安なところもありましたが、同級生や先生の応援を受け、楽しそうにノコギリを引いていました。

この後全員が輪切りを持って教室に移動して、仕上げの手順を職員から説明を受け出前授業を終わりました。

これを機会に今まで以上に森林への関心を高め、城山国有林の利用が図られる

取組を地域に発信

ことを期待するものです。

〔南信署〕平成二十二年三月三日に「伊那谷の林業を考える研究会」、三月六日に「森林に学ぶネットワーク」が信州大学農学部において開催され、当署も参加するとともに、国有林野事業の取組について報告しました。

「伊那谷の林業を考える研究会」は、伊那谷流域林業活性化センターが主催し、今回初めて開催したもので、伊那谷の林業関係者約八十名が参加し、基調講演の外、参加六団体の取組内容が発表され、当署からは販売係長が「伊那谷流域における国有林材の流通」と題して、システム販売材や委託販売材の下流域への流通等の説明と現状を踏まえた今後の課題・対策等を発表しました。

基調講演の中で、信州大学経営大学院
特任教授のマイケル・ノートン氏から、
スコットランドの林業の取組を例に、
「企業、大学、行政などが林業の分野に
とどまらず連携し、一定の成果を得てい
る。」との話がありました。

最後に、コーディネーターを努めた信州大学の植木教授から「地域林業と叫んでも、隣は何をする人ぞ状態では発展できない。広い視野をもつて現状をとらえ、問題を見直すことも必要」とのまとめをもつて盛会の内に閉会しました。

また、「森林に学ぶネットワーク」は、県内の森林・林業関係の NPO 法人等が構成する「森林に学ぶ」ネットワーク運営委員会が主催し、今回で十二回目の開催となり、一般の者を含め約七十名が参加し、大学生の外三団体の取組内容が発表され、当署からは森林ふれあい係長が「地域との連携による事業展開」と題して、南アルプス食害対策協議会と連携したニホンジカ被害対策の取組を発表しました。

ニホンジカ対策に関しては、現地の被害をよく知る参加者から様々な情報を得る中で、意見交換等を行い、科学的な調査が更に必要であるとの認識が再確認されました。森林・林業再生プランを踏まえ、民国が一体となった施策の推進が求められている中、このような機会を通じて林業関係者の資質の向上と交流が図られたことは大変有意義なものであり、当署としても地域林業を担う一翼として重



発表する森林ふれあい係長

要な位置を預かっているとの認識の下、今後とも連携を深めていきたいと考えています。

田立の滝一般開放に向けて

～田立地域の植物勉強会を実施～

「南木曽支署」三月七日、田立国有林の田立の滝にて、植物勉強会を行い、南木曽町役場職員と南木曽支署職員合わせて二十名が参加しました。

「田立の滝」は天河滝（高さ四十メートル）を主瀑にうるう滝・らせん滝・洗心滝・霧ヶ滝・不動滝等無数の滝が連なった滝の総称で日本の滝百選に選ばれており、四季を通じて、訪れる人々の目を楽しませてくれる景勝地であります。また、田立国有林は比較的温暖な気候であることから生育する樹木や植物も多く、多くの人が森林浴に訪れるところです。

しかし、平成二十二年と豪雨により滝周辺の山肌が崩壊し危険となったことから、平成二十二年から三年間入山禁止にして、復旧治山工事を実施し、今年度ですべての工事が完了となり、四月から入山が可能になることから訪れる方々にあらためて周辺の植物等の紹介ができるように勉強会を行いました。

当日は、国有林アドバイザーの楯誠治先生を講師に招き、田立地域にある植物について、スライド写真による説明を受けたあと、現地の田立の滝の遊歩道の自然散策をしながらの学習を行いました。



勉強会の様子

四月二十八日の「田立の滝開き」を控え、地元有志による遊歩道の整備も行われる等準備を進めてきました。

地域の皆さんと「田立の滝を守り続けていきたい」という思いを共有して、今後もこういった地域との関わりを大切にしながら地域貢献・PRに取り組みしていくこととしています。

シリーズ 現場最前線

意思統一で無災害継続に努める

「東濃署上矢森林事務所班」

上矢作班は、岐阜県恵那市上矢作町に所在する上村恵那国有林の約四、二〇〇畝で作業を行っています。

当班は、基幹作業職員二名と臨時作業職員二名の計四名体制で活動しており、気心の知れた仲間同士であるため、何で

も言い合える雰囲気、活気が溢れる現場です。

作業内容は、収穫調査・林道維持修繕・境界巡検・分収育林の明認作業・冬期の除伐Ⅱ類等、多岐にわたる業務を担っています。そのため、日々の業務内容や作業地の条件等を踏まえて、ツールボックスミーティング等で危険箇所や危険な作業動作の確認、効率的で安全な作業方法等について皆で打合せ、意思統一を図っています。

また、上村恵那国有林は急峻な地形が多く、かつ、土質が真砂土であるため林道の陥没や法面からの崩土などが発生しやすいため、降雨後はもとより、日々の林道走行に当たり、防衛運転、かもしれない運転に徹するなど十分に注意しています。

今後もこれらのことを継続し、より一層活気溢れる職場づくりを職員一丸となつて目指し、無災害を続けていく決意です。



収穫調査へ向かう上矢作班の皆さん



古城山風景林

「岐阜署」岐阜県の南西部、濃尾平野の北端部に位置する美濃市に、この山が所在する古城山国有林があります。

美濃市といえは古くは長良川の舟運の集積地として、また美濃和紙の産地として栄えてきたところで、国の重要伝統的建造物群保存地域区の選定を受けた卯建（うだつ）の上がる町並が有名な「和紙とうだつのまち」です。

そんな市の中央部に位置する国有林は、面積二〇八㍻の大部分がヒノキやスギを主体とした人工林になっていますが、標高四三七㍻の古城山は登山道からの眺望に優れていることから、年間一万人を超える人々が登山に訪れ、昭和五十年四月から古城山風景林（七二㍻）に設定されています。

もともとこの山は古名を鈍尾（なたとお）山といい、戦国時代から中濃を制覇していた佐藤氏三代の居城でしたが、三

代目の佐藤才次郎方政は関ヶ原の合戦で石田三成方について敗れ、滅亡してしまいました。

現在も山頂には本丸跡があり、四方釣り壁の要塞であったと伝えられる本丸の石垣は半ば埋もれながらも残っています。また、北尾根には数段の曲輪跡が見られ、本丸の東には食料倉庫等が並んでいたという帯曲輪（おびくるわ）跡の細長い平地もあります。

本丸から南には三つの曲輪跡があり、その先にある石垣の大手曲輪跡は登山時に気がつかないほど崩れています。どの曲輪も塀や柵をめぐらした立派な山城であったと思われる、戦国時代を垣間見ることが出来ます。

登山道は市、市民、署、ボランティア団体により軽装で気軽に登れるよう整備されており、麓には森林県岐阜に相応しい「岐阜県立森林文化アカデミー」や「岐阜県森林科学研究所」もあり、森林・林業に関わる勉強、試験研究の場にもなっています。

◆アクセス方法

○マイカー

・東海北陸自動車道・美濃インターチェンジ↓国道一五六号線を北上↓曾代（そだい）交差点を西↓美濃市運動公園（駐車場）

○公共交通機関

・長良川鉄道梅山駅下車↓徒歩三十分↓美濃市運動公園



山頂から市街地を望む



古城山



東屋で一休み



整備されている登山道